



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

研究員 全体実践発表（公開授業）

平成30年10月12日（金）実施

目的

研究員全員で、授業を参観して気付いたことを整理し、明確になった成果や課題を共有することで、それぞれの授業実践と重ね合わせ、授業改善につなげること。

公開授業：高須小学校 間城 美和 研究員

総合的な学習の時間「人を助ける『ゆめのロボット』を考えよう」



研究員全員を対象とした学びの場の一つとして位置付けられている全体実践発表（公開授業）が、高須小学校で行われました。

間城研究員は、研究テーマ「問題解決に向けて論理的に思考することができる児童の育成—理科におけるプログラミング教育—」に基づいて研究を行っています。今回は、第4学年の理科「わたしたちの体と運動」や国語科の説明文「ゆめのロボット」、総合的な学習の時間の三つの教科・領域を教科横断的に単元を構想し、本時はブロックで組み立てたロボット（アーテックロボ：学研）を使ったプログラミングの授業を公開してくれました。

単元の中で、プログラムを作ることだけが授業のメインではなく、「自分たちの生活にプログラムされたものがあること」「プログラムは人が作っていること」「人とロボットができること、できないことに違いがあること」「プログラマーではなく、**プログラミング的思考（※1）**を育むことができるようにするためにはどうすればいいのか」ということを認識させながら、単元の授業に取り組んできました。



お互いの意見を
受け入れながら、
試行錯誤する姿が
見られました！



※1 プログラミング的思考

自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力。

＜小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編 P 85＞

研究協議

間城研究員から、研究テーマとの関連及び本時のねらい、手立て等について説明してもらい、**授業参観の視点（※2）**に沿って、4グループに分かれてワークショップ型研修の手法の一つであるマトリクス法を用いて研究協議を行いました。活発な意見交流がなされ、全体で共有し、学びを深めることができました。

※2 授業参観の視点

- 問題を解決するために、試行錯誤して最後までやり遂げようとしていることができるのか。
- プログラミングをするためには、順番を大切にしなければいけないことを理解することができるのか。
 - ・ 自分の意図する動きをロボットにさせるための命令を考えることができるのか。

成果

- ・ 自分たちの入れたプログラムの結果から、次にどうしたらよいか試行錯誤できていた。
- ・ ロボットに命令をすることは、児童自身の思いや願いを伝えることと同じである。児童がロボットの動作化に成功したときには、伝わった喜びや達成感を得ることができていた。

疑問点・課題

- ・ 手当たり次第に条件をいくつも変えていたため、何が原因でうまくいかなかったのかが特定できていなかった。
- ・ スタートとゴールの条件を設定する必要がある。

改善策

- ・ うまくいった班とそうではない班のプログラムを比較し、修正していくことで全班の成功につなげる。
- ・ 試行錯誤の跡を残して共有する。

【自己の学び・研究につなげたいこと】

- ・ プログラミングの授業を取り入れることで、子どもたちが生き生きと主体的に学んでいた姿がとても素晴らしかった。プログラミング的思考を取り入れたユニバーサルデザインの授業づくりを目指していきたい。そこには、児童ができた、やれたといった達成感が得られるように心がけたい。児童の自己肯定感を少しでも高められるように努めたい。
- ・ 学習指導要領改訂によって、プログラミング教育が必修化されることで、自分自身がプログラミングについて学んでいかなければならないということを感じた。また、子どもたちが学びの主体となり、子ども同士で学び合い、試行錯誤しながら学ぶことで、新たな気づきやより深い学びにつながっていくような授業づくりや単元づくりを行っていかなければならないことを改めて感じた。
- ・ 児童が主体でありながら、教師が本時のねらいに導くための準備、ねらいをしっかりと把握し、的確なアドバイスを行っていたところがよかった。課題を解決していく様子は、日々の実践の積み上げであり、あのような児童の姿は、学級経営の賜物であるので、自分自身も取り入れたい。

【講義・演習】 「道徳科における指導の工夫と評価の在り方」

講師：畿央大学 島 恒生 教授



道徳の時間は、「ないもの」を子どもに教えるのではなく、子どもの心の中に育ってきている「あるもの」に気付かせることが大切！
意識的にプラス志向でいきましょう！



これからの時代を切り拓く
子どもたちのために

道徳性の育成

自覚を通して道徳的価値を
自分のものに

学習の様子
(多面的・多角的な見方や、自分との関わりで一生懸命考えている姿勢等)を評価する

評価

子どもにとって
自らの成長を実感し、自信と意欲を育てるもの

教師にとって
指導計画や振り返り、指導の充実・改善に資するもの

「主体的・対話的で深い学び
の実現に向けて」

考え、議論する道徳

☆ 教師がしゃべらないように授業の工夫をすること

※ 前もって教材を読ませる、めあてを最初に示しておく、貼物を工夫する等

☆ 内容の視点と発達の段階を押さえ、子どもが「えっ」と思う問いをつくること

※ そのためには、第一発問も重要

☆ ゴールを想定すること

※ ねらいや中心発問、終末がつながる

☆ 意識的にプラス志向で

※ ポジティブ心理学・脳科学の考え方



【具体例】 中学三年生の教材「二通の手紙」から考える

- 内容項目：遵法精神 C（10）
- 内容の視点：C（10）主として集団や社会との関わりに関する事
- 発達段階を考慮したゴールの子どもの姿
「規則は私たちが思いや願いを込めて作ったもの。堅いものではなく、命を守る為に堅くしているんだ」
- 第一発問：「元さんはどうして子どもたちを入園させたのだろう」

※ 元さんが、規則に対して、「子どものためなら少しくらい破ってもかまわない」「規則は厳しすぎる」と考えていたことを確認する。

- 中心発問：「元さんがこの年になって初めて考えさせられたことはどんなことでしょう」

※ 「この年になって初めて」ということがポイント。二通の手紙を並べて、二通がつながっていることに気付く切り返しの工夫。



教師用の道徳授業の振り返りチェック

- ☐ 学習規律を定着させ、安心して意見が言合える学級集団をつくっている。
- ☐ 内容項目の理解と児童生徒の実態に基づいて、ねらいを適切に設定している。
- ☐ ねらいに迫る展開の流れを考えている。
- ☐ 教材の内容が分かる教材提示を工夫している。
- ☐ 児童生徒の反応を生かし、問い返したり全体に広げたりしながら、思考を深めさせている。
- ☐ 児童生徒の言語活動や協働的な思考を深める活動を工夫している。
- ☐ 児童生徒の考えを生かしながら構造的で分かりやすい板書にしている。
- ☐ 児童生徒が自分との関わりで考え、道徳的価値の自覚を深める授業であった。

【受講者の感想】

今回の研修は、考える場面が多く、「考え、議論する道徳」の理解に役立った。子どもの頭に「？」が生まれる問い、中心発問をしっかりと考え、ゴールを念頭に置いた深い学びのある授業づくりを目指したい。